

特集「学生・若手研究者論文」の編集にあたって

乾 健太郎^{1,a)}

次世代を担う学生や若手研究者が自信の研究成果をタイムリーに論文発表できる場を提供する。本特集号はそうした趣旨で企画され、学生や博士学位未取得の若手研究者による論文をひろく集めた。

この「学生・若手研究者論文」特集は前年 2014 年にも企画編集されており、2015 年に企画編集した本特集号は前年に続くシリーズ 2 回目である。第一著者が学生または若手研究者でかつ情報処理学会の取り扱う研究分野に関連すれば広く投稿を受けつけることとして、特に博士号取得を目指す若手研究者の積極的な投稿を呼びかけたところ、1 回目の 2014 年は予想をはるかに上回る 94 件の投稿があった。これは、この時期にスピーディーに論文を出したいと考える学生あるいは博士候補者諸氏のニーズがあったことを示すものと思われる。こうした特集号の趣旨に疑問の声もあったが、1 回の試行だけでは分からないことも多く、少なくともニーズがあることは確かと考えられたため、同じ趣旨の特集号を再度企画することにした。2 回目の本号には 76 件の投稿があり、前回から若干減ってはいるものの、やはり堅調なニーズがあったといえる。

本特集号は論文誌ジャーナル編集委員会幹事会のメンバーを中心に編集している。前回と同様、編集委員に各グループの主査・副査経験者をそろえることで、本論文誌の査読指針「べからず集」の理念を徹底し、論文の良いところを拾い上げるように努めた。前回の採録率が 36%と若干低調であったことをふまえ、内容が一見不十分に見える論文であってもなるべく条件付き採録として、照会による改善の可能性をさぐるという方針を改めて確認した。結果としては本号の採録率も 3 割にとどまったが、それでも全 22 編の採録論文からなる大型特集号を世に出すことができた。この分野の学生・若手研究者の活動にわずかでも支援ができたとすれば幸甚である。編集に協力いただいた多数の編集委員、査読委員、事務局の各位にこの場を借りて御礼申し上げたい。また、読者諸氏には発展著しい情報処理分野の次世代に育っている息吹を感じていただければ幸いである。

本特集については課題も残った。募集する論文の研究分

野を限定しないということは、特集号の意義、通常号との区別が必ずしも明確でないということでもある。通常号での審査が十分に短く、採否決定までの期間が保証されていれば、前述のようなニーズは通常号でも受けとめられるはずである。審査期間の短縮については、現在論文誌ジャーナル編集委員会幹事会において、査読管理システムの刷新、審査プロセスのスリム化、査読遅延対応の整備等の施策が進められている。クイックアクセプト/リジェクト、エクспレス査読など、思い切った制度の導入も検討の価値があると思われる。進化を続ける論文誌ジャーナルの今後にもご期待いただきたい。

「学生・若手研究者論文」特集号編集委員会

- 編集長
乾健太郎（東北大学）
- 副編集長
岡部寿男（京都大学）
- 編集委員
須賀祐治（(株)インターネットイニシアティブ）、今泉貴史（千葉大学）、重安哲也（県立広島大学）、延原章平（京都大学）、竹田尚彦（文部科学省）、鈴木幸太郎（日本電信電話（株））、義久智樹（大阪大学）、中野倫靖（産業技術総合研究所）、甲斐充彦（静岡大学）、中村 豊（九州工業大学）、堀山貴史（埼玉大学）、立石孝彰（日本アイ・ピー・エム（株））、渡辺 大（(株)日立製作所）、吉高淳夫（北陸先端科学技術大学院大学）、鶴岡慶雅（東京大学）、渡辺知恵美（筑波大学）、飯田 龍（情報通信研究機構）、坂本大介（東京大学）、寺田和憲（岐阜大学）、中山泰一（電気通信大学）、井口寧（北陸先端科学技術大学院大学）、藤井秀樹（東京大学）、藤田桂英（東京農工大学）、浅井信吉（会津大学）、林 佑樹（大阪府立大学）、豊浦正広（山梨大学）、沖野浩二（富山大学）、瀬尾茂人（大阪大学）、関野 樹（総合地球環境学研究所）、鳥居秋彦（東京工業大学）、榎堀 優（名古屋大学）、松島裕康（産業技術総合研究所）

¹ 東北大学大学院情報科学研究科
Tohoku University

^{a)} inui@ecei.tohoku.ac.jp